

平成3年9月10日

社団法人 情報処理学会
調査研究運営委員長 殿

データベース・システム研究会
主査 増永良文

データベース・システム研究会継続について（お願い）

下記のとおり研究会の活動を継続いたしたく、よろしくお取り計らい下さいますようお願い致します。

記

1. 継続希望研究会名

データベース・システム

2. 継続の趣旨

データベースとその管理システムはハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェアと並んで、コンピュータの必要欠乏からざる要素と考えられる。そのよ
うな研究を育成し、研究討論の場を提供し、わが国のデータベース・システム技術
術の健全な発展に資するたため、情報処理学会には昭和48年度にデータベースの
研究会が設立され、現在のデータベース・システム技術は、コダシルデータベース、リレ
ーションデータベース、在庫管理や人事管理、データベースの管理へと、変貌
データベースと発展を遂げ、またデータベースの応用ドメインも、C A D や C A S E の管理
といった、いわゆるビジネスデータの管理から、C A D や C A S E の管理へと、変貌
メディアデータベースのたため、新しい応用システムが注目される。このよ
うな現状として、オブジェクト指向データベースの演進が、データベースの技術
には未知の部分が多い。しかし、データベースの演進が、データベースの技術
データベース・システムの構築と、データベースの演進が、データベースの技術
データベース・システムの研究の意義はますます増大し、社会的に重要と考
えらる。このよ
うな状況の中、本研究会を継続する。

3. 研究分野

基礎理論、データモデル、DB設計、データベース管理システム、情報資源管
理、質問処理、トランザクション管理、DBプログラミング言語、DBマシ
ン、分散型DB、演繹DB、オブジェクト指向DB、オフィスDB、エンジニア
リングDB、マルチメディアDB、先進的DB応用など

4. その他

現在の研究会の名称「データベース・システム」を「データベースシステム」
と変更することをお願いする。現在の名称は昭和57年度に「データベース管
理システム」に代わり付けられた。当時の主査（現中央大学酒井博敬氏）によ
れば、その頃ACM Transactions on Database Systemsが発刊され、データ
ベースやその管理システムを含む広い意味で、それに習い「データベース・シ
ステム」と名称変更したという。現在も研究会の趣旨は当時と変わらないが、
それを表すには現在「中黒（・）」を使わず、「データベースシステム」とす
るのが一般的であるため。